

**製品名: PON1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16371**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	PON1 PON
別名	Serum paraoxonase/arylesterase 1 (PON 1; EC 3.1.1.2; EC 3.1.1.81; EC 3.1.8.1; Aromatic esterase 1; A-esterase 1; K-45; Serum arylalkylphosphatase 1)
遺伝子 ID	5444.0
SwissProt ID	P27169
免疫原	抗血清はヒト PON1 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100

**背景**

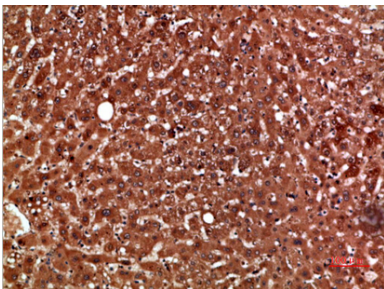
この遺伝子によってコードされる酵素は、主にパロキソンを加水分解して p-ニトロフェノールを生成するアリールエステラーゼで

す。パロキソンは、殺虫剤パラチオンの酸化によって生体内で生成される有機リン系抗コリンエステラーゼ化合物です。この遺伝子の多型は冠動脈疾患の危険因子です。この遺伝子は、7q21.3にある3つの関連するパラオキシナーゼ遺伝子のクラスターに存在します。[RefSeq 提供、2008年10月]、触媒活性: 酢酸フェニル + H(2)O = フェノール + 酢酸。、触媒活性: アリールジアルキルリン酸 + H(2)O = ジアルキルリン酸 + アリールアルコール。、疾患: PON1の遺伝子変異は、糖尿病網膜症の感受性と関連しています [MIM:612633]。これは、5型糖尿病の微小血管合併症 (MVCD5) とも呼ばれます。糖尿病性網膜症は、糖尿病患者における失明の主な原因です。網膜疾患は、網膜に血液を供給する血管への悪影響によって引き起こされます。、機能: 様々な有機リン系殺虫剤の毒性代謝物を加水分解します。広範囲の有機リン系基質および多くの芳香族カルボン酸エステルを加水分解することができます。低密度リポタンパク質を酸化修飾およびそれに伴うアテローム形成につながる一連の反応から酵素的に保護する働きがあると考えられます。、その他: PON1とHDLの優先的な結合は、シグナルペプチドを介して、アポAIではなくリン脂質に直接結合することで部分的に媒介されます。保持されたシグナルペプチドは、リン脂質表面間でのタンパク質の転移を可能にする可能性がある。、オンライン情報: シンガポールヒト変異・多型データベース、多型: Gln-192を持つ酵素の対立遺伝子型 (アロザイムA) は低い回転数でパラオキシソンを加水分解し、Arg-192を持つ酵素の対立遺伝子型 (アロザイムB) は高い回転数でパラオキシソンを加水分解する。、PTM: グリコシル化されている。、PTM: 2つの形態で存在し、形態Bはジスルフィド結合を含み、形態Aは含まない。、PTM: シグナル配列は切断されない。、類似性: パラオキシナーゼファミリーに属する。、サブユニット: リン酸結合タンパク質 (HPBP) とのヘテロオリゴマー。CLUと相互作用する。、組織特異性: 血漿、HDL (タンパク質レベル) と関連。肝臓で発現するが、心臓、脳、胎盤、肺、骨格筋、腎臓、膵臓では発現しない。、

## 研究分野

神経科学

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は1:200に希釈された